

灌水支援システムを活用した乾燥ストレスの評価方法

はじめに

Web サービスである栽培管理支援システム (<https://agmis.naro.go.jp/>) に含まれている「大豆の栽培管理支援情報：灌水支援」を使うことで、過去の気象条件での乾燥ストレスの程度が推定できます。ここでは、その方法を説明します。

1. アカウント取得からログインまで

栽培管理支援システム (<https://agmis.naro.go.jp/SIP/>) から、左の図の①から③の手順で



ログインします。

2. 地点登録

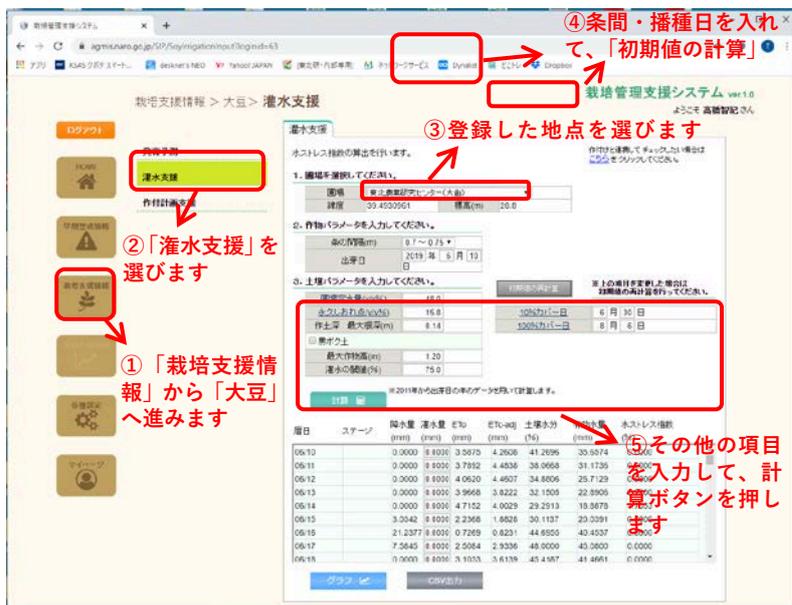
①「各種情報」から「圃場登録」へ進み、②右側の地図から調べたい圃場をクリックします。クリックされた地点の緯度経度が左側の表に出ますので、③名前をつけて、登録内容を確定してください。

クリックします。クリックされた地点の緯度経度が左側の表に出ますので、③名前をつけて、



3. 圃場データの入力

①「栽培支援情報」へ行き、②「灌水支援」を選択します。

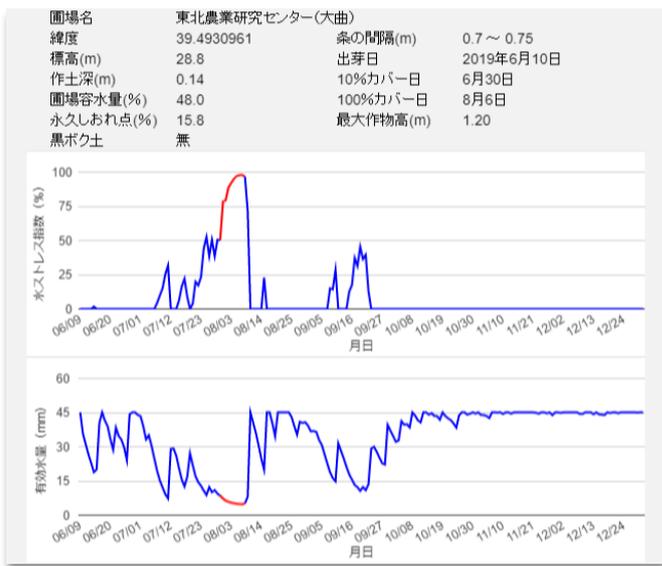


次に③地点登録で登録した圃場を選び、④条間・播種日を入力します。その後、必ず初期値の計算ボタンを押します。

最後に⑤その他の項目を入力し、「計算」ボタンを押します。※その他の項目の入力で不明な点は5.を参照ください。

#### 4. 結果の見かた

「グラフ」ボタンを押すと、左のようなグラフが出ます。上のグラフの赤線の部分が乾燥ストレスを受けている時期です。どんな地域でも5日程度は赤線の時期がありますが、この期間が長いようでしたら、適期灌水や深耕等の乾燥ストレス対策を考えてください。



#### 5. その他の項目の入力について

(1) 圃場容水量・永久しおれ点  
これらの数字を求める第一の方法は、土性から推定する方法です。そ

れぞれの項目をクリックすると、簡単に土性を調べる方法と、その土性に対応した圃場容水量・永久しおれ点が参照できるようになっています。第二の方法はe-土壌図II (<https://soil-inventory.dc.affrc.go.jp/eSoilMap.html>) を参照することです。e-土壌図の使い方は、ここでは説明しません。e-土壌図IIのサイトを御覧ください。

(2) 10%カバー日・100%カバー日

ダイズの被覆程度で決まる暦日です。おおよその値が自動的に計算されます。通常はこの暦日を使えば問題ありませんが、実感と異なるようでしたら、手入力できます。10%カバー、

100%カバーの様子はクリックすれば写真で確認できます。

(2) 灌水の閾値

判らない場合は 70%として下さい。 グラフの赤い表示部分が変わるだけで、計算値には影響はありません。

(3) 最大作物高

最大に茂った時の大豆の高さです。おおよその数字で問題ありません。